

[1 月例会]講演会 日時：2016 年 1 月 7 日（木）18:00～20:00

「国立ブータン科学技術大学におけるボランティア活動報告」

講師：高橋 正 氏（建設）建築士 株式会社 環境総合リサーチ 技術本部

1. はじめに

ブータンでのボランティア活動（JICA シニアボランティア活動）につき述べる。

ブータン国は王国として約 100 年前に建国した立憲君主制国家である。北部は 7000m 級のヒマラヤ山脈、南部は 200mのインド平原の間に展開する急峻地形で、人口約 70 万人、面積 3 万 8400 km²、GDP 約 1700 億円と小国である。中国とインドの 2 大国と国境を接しており、チベット仏教の国で主な産業は農業又は観光業で水力発電からの収入が主なものである。ブータンでは GDP に代わり、GNH(Gross National Happiness)が国づくりの目標とされており、経済的自立、環境保全、文化の保全と環境、良き統治が 4 つの柱となっている。

2. ブータンでの CST 土木工学講師について

ブータンでは医療費と教育費は無料で国内には大学は、RUB と呼ばれるブータン国立大学のみである。ブータン王立大学の傘下にある工科大学（CST）で講師を勤めた。担当は土木工学講師としての業務で、CST での公衆衛生学（2013 年）、及び環境工学（2014 年）、水理学実験の講師業務を行った。土木工学科は 1 学年 50～100 名程度で学生は高校の試験成績によって、選抜されており潜在的能力は高いと感じた、女子学生も多く学生はまじめで勉強熱心である。

3. ブータンの CST での現状と展望について

CST では、環境工学などの講義資料が共有化出来ていない問題があり、教科書にあたるシラバスの作成改訂が必要と感じた。特に同国としては水系伝染病に関する基礎知識、畜産排水処理、農村部での衛生設備、コンポスト処理技術などを追加したシラバスの作成改訂が望まれる。

4. むすび

ブータンでの CST 教育の今後の課題としては、教育、研究、機能などの質的向上、地に足を付けた取り組みの必要性などが挙げられる。高橋 正氏のブータンでの活動の詳細は、インターネットの検索で「水行末・ブータン」とすると、氏のブログで見ることができる。